

I 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
 - b 脱字。
 - c 文末の句点の脱落。
 - d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
※その他不適切と判断せざるをえない箇所。
 - e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
- ※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ (50点)

問一 解答通り 各2点

a 華美 b 貢献 c 糧 d 発露 e 操

問二

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点12点

■模範解答例

A
生命の維持は万人の共有する根源的価値だが、その実現が容易になった人間は、生命の維持に直接に必要な豊かな生活、生の充実や幸福、社会的活動など多様な個人的価値を社会的関係の中に見出すようになるから。
C D E B

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百字 四十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「生命の維持は万人の共有する根源的価値だが、その実現が容易になった人間は」…3点

- ・「根源的価値としての生命の維持が容易になった」という意味内容が読み取れれば可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・「根源的価値」に相当する説明を欠く場合は2点。

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「生命の維持に直接に必要な」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・傍線部Aの説明が正しくなされ、「生命の維持」を指示語「それ」でうけていても可。

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「豊かな生活、生の充実や幸福、社会的活動など」…3点

* 本文第三段落の始めの三行をまとめたものであることに留意しながら採点にあたって下さい。

- ・「豊かな生活」と「性の充実や幸福」はいずれかに相当する説明があればそれで可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「多様な個人的価値」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素E 「社会的関係の中に見出すようになる」…2点
- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素F 「…から…ので」という文末表現が原則。理由説明の答案として不適切な形であると判断される場合は1点減点。

問三

- 形式上の不備
- ・ 文末表現は要素c参照

基準 配点4点

■模範解答例

A B

自己蔑視や他者への過剰な攻撃性として発現すること。

- 採点方法…各要素単独採点

■字数…二十五字 十二字以下のものは全体不可(0点)

- 要素A 「自己蔑視」…2点

- * 本文の「自己蔑視になり、最悪は自死を招く」の箇所をうけている。
- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「自死」だけを示したような、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素B 「他者への過剰な攻撃性」…2点

- * 本文の「他者を過剰に裁く攻撃性」の箇所をうけている。
- ・ 「過剰な」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素C 「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例

A 具体的な物品に置き換えられた単語は、
B 実在の物体を指し示すのではなく、
C 細部や色などが異なる
D 各人に

固有のイメージを喚起するにすぎないということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十字 三十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「具体的な物品に置き換えられた単語は」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「実在の物体を指し示すのではなく」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「細部や色などが異なる」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「各人に固有のイメージを喚起する」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点16点

■模範解答例

A
B
C
D
E
F
 他者とのコミュニケーションの過程で生成する概念的なフィクションの中に生きている人間は、それによつて規定される自分と他者との関係、自分のポジションと役割を意識と無意識の内で感受しており、そのような社会的な関係性を前提として許容されうる範囲内での自己の適切な言動の選択を強いられ続けているということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百五十字 七十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「他者とのコミュニケーションの過程で生成する」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「概念的なフィクションの中に生きている人間は」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「概念的」「フィクション」のいずれかを欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「それによつて規定される自分と他者との関係、自分のポジションと役割を」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「自分と他者との関係」「自分のポジションと役割」のいずれかを欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「意識と無意識の内で感受しており」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「意識と無意識」を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「社会的関係性を前提として許容されうる範囲内での」…3点

- ・ 「社会の中で許容される範囲内」という意味内容が文脈から何とか読み取れば可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「説明が曖昧であると判断される場合は1点。」

■要素F「自己の適切な言動の選択を強いられ続けている」…3点

- ・ 「自己の」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「強いられる」に相当する説明については広く許容してよい。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

□ (50点)

問一 解答通り 各2点

a 〓放棄 b 〓精緻 c 〓所業(所行) d 〓神道 e 〓喝破

問二

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点13点

■模範解答例

A

経験される神の圧倒的な存在性は神の概念に組みこまれており、それが経験を超越した神の存在理由である

C

と考えると、神の概念は経験から切り離された人間の語るものに過ぎなくなり、結局は神より人間の方が根

D

B

本的なものになるという批判。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百十字 五十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「経験される神の圧倒的な存在性は神の概念に組みこまれており」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「経験される」を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「それが経験を超越した神の存在理由である」…3点

- ・「経験を超越した」を欠いても、Aが神の存在理由であることを説明できていれば可。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「神の概念は経験から切り離された人間の語るものに過ぎなくなり」…4点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「経験から切り離された」に相当する説明を欠く場合は3点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素D「神より人間の方が根本的なものになる」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「…(という)批判」という文末表現が原則。「批判」を説明する答案として不適切な形である

と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点13点

■模範解答例

A

人間が生きる日常のあらゆる場面で、何らかの存在の実感と共に到来し、直面しているにもかかわらず人間

B

D

C

E

には手も届かず意のままにもできず、それと現実との差異を受け容れる謙虚さ、また自身を省みて行いを正

す責任感を人間に持たせるもの。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百十字 五十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「人間が生きる日常のあらゆる場面で」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「何らかの存在の実感と共に到来し」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「直面しているにもかかわらず人間には手も届かず意のままにできず」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「手も届かず」と「意のままにできず」に相当する説明のいずれかを欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「それと現実との差異を受け容れる謙虚さ」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「それと現実との差異を受け容れる」は「自分の現実を全てだと思わない」でも可。
- ・「謙虚さ」に相当する説明があれば2点あたえてよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「また自身を省みて行いを正す責任感を人間に持たせる」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「自身を省みて(行いを正す)」と「責任感」に相当する説明のいずれかを欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「…もの」という文末表現が原則。但し「経験としての神」について説明する答案として適切な形であると判断されるなら許容してよい。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素G参照

基準 配点1点

■模範解答例

A
 カテゴリーが存在者の基礎的、根本的秩序であるとしても、それは人間の認識器官・感官が展開する生の
 B
 維持と発達にとって有益な道具だという経験の自明性を証明するだけで、現実の固定化に便利な
 C
 真理性の
 D
 ない虚構に過ぎないと言えるから。
 E
 F

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百十字 五十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「カテゴリーが存在者の基礎的、根本的秩序であるとしても」…3点

- ・「基礎的」「根本的」はいずれか一つあれば可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「存在者」は「存在」でも可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「人間の認識器官・感官が展開する」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「生の維持と発達にとって有益な道具だ」…3点

- ・「生」は「生命」でも可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「維持」「発達」に相当する説明のいずれかを欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「経験の自明性を証明するだけ」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「現実の固定化に便利な」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「真理性のない虚構に過ぎない」…2点

- ・「虚構」に相当する説明があれば可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G「…から…ので」という文末表現が原則。理由説明の答案として不適切な形であると判断される場合は1点減点。

★2022年度 第1回 阪大本番レベル模試（人外法経）

目 (古文『讃岐典侍日記』) 採点基準

※ 50点満点

問一 (a) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 2点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕 A2 寝なん

〔模範解答〕 A2 寝てしまおう

〔ポイント〕

要素A【2点】 寝てしまおう

※「寝てしまいたい」でもよい。

※「な」の完了の意（～してしまう）がない「寝よう・寝たい」は【1点】。

※「寝てしましましょう」のように、丁寧の意（～ます・～です）が入っていてもよい。

問一 (b) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 2点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕 わびしからめ

〔模範解答〕

A	A
---	---

2 つらいだろう

〔ポイント〕

要素 A【2点】 つらいだろう

※「つらい思いをするだろう・悲しいだろう・悲しむだろう・気を悪くするだろう」等でもよい。

※「め」の推量の意(「だろう」がない)「つらい・悲しい」は【1点】。

※「つらいでしょう」のように、丁寧の意(「ます・です」が入っていてもよい)。

問一 (c) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 2点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕

A2 こちたげに

〔模範解答〕

A2 大げさに

〔ポイント〕

要素 A【2点】 大げさに

※「仰々しく・ことごとしく・大事のように・過度に」等でもよい。

※「うるさく・わずらわしく」等は【1点】。

問一 (d) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 2点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕 A2 参らせん

〔模範解答〕 A2 差し上げよう

〔ポイント〕

要素 A【2点】 大げさに

※謙譲の意がない「やろう・渡そう」は【1点】。

※「ん」の意志の意（～しよう）がない「差し上げる・差し上げます」等は【1点】。

※「差し上げましょう」のように、丁寧の意（～ます・～です）が入っていてもよい。

問二(一) 傍線部(A)・(B)について、ここではどのようなことを述べているのか、100字以内で説明しなさい。

基準 配点 8点 採点方法 各要素単独採点(AとCは条件あり) 字数 100字。

〔傍線部〕 A 候ひし折、更けしさまは、所せかりし心地せしものを。

B まして、出で喜びすとて、わびせんと申し召したりし折は、あやにくがりて、とみにも御手も触れさせたまはざりしものを。

〔模範解答〕

A2 堀河帝に仕えていた頃、夜が更けると、B1 作者は気づまりな気持ちがして退出しなくなり、C1 作者が退出するのを楽しんでいると思った(D・E) 堀河帝から、D2 わざと政務を遅らせてE2 退出を邪魔され、困らされたことがあったということ。(九九字)

〔ポイント〕

要素A【2点】 堀河帝に仕えていた頃、夜が更けると、

※Bが0点の場合は得点できない。

※「堀河帝に仕えていた頃」は「堀河帝存命の時」等でもよい。これがない場合はマイナス1点。

※「夜が更けると」は「夜になると・夜遅くなると・深夜」も可。これがない場合はマイナス1点。

要素B【1点】 作者は気づまりな気持ちがして退出しなくなり、

※「作者は・讃岐典侍は」等の主体の補いの有無は不問。

※「気づまりな気持ち」は「窮屈に感じて・やっかいに思われて・めんどろになって」等、または「(帝に仕えることが) 遠慮されて・はばかりれて」等でもよい。

※右の意がなくても、「退出しなくなり・宮中から出なくなり・帰りたくない」等の意があれば可。

要素C【1点】 作者が退出するのを楽しんでいると思った

※DもEも0点の場合は得点できない。

※『「作者(讃岐典侍)は退出したがっている・作者は退出を楽しんでいる」と帝(堀河帝)が思っている」ことが解答全体から読み取れればよい。

右の意が読み取れば「作者を退出させて喜ばせるのは面白くないと考えた帝は」のような表現でもよい。

要素D【2点】 堀河帝から、わざと政務を遅らせて

※「帝(堀河帝)が政務(仕事)を遅らせた」の意が解答全体から読み取れればよい。

※主体である「帝(堀河帝)」が明らかでない場合は×。

要素E【2点】 堀河帝から、退出を邪魔され、困らされたことがあったということ。

※「帝(堀河帝)が退出を邪魔(阻止)した・帝が退出させまいとした・帝が退出を嫌がった・帝が困らせた・帝が意地悪をした」等の意が解答全体から読み取れればよい。

※主体である「帝(堀河帝)」が明らかでない場合は×。

問二(2) 傍線部(A)・(B)はいずれも文末が「ものを」で結ばれているが、ここにはどのような心情が表れているか、説明しなさい。

基準 配点 6点 採点方法 各要素単独採点(条件あり) 字数 指定なし。

〔傍線部〕 A 候ひし折、更けしさまは、所せかりし心地せしものを。

B まして、出で喜びすとて、わびさせんと思し召したりし折は、あやにくがりて、とみにも御手も触れさせたまはざりしものを。

〔模範解答〕 A2堀河帝に親しく仕えた日々が B2二度と戻らないものであると思うと C2悲しく、

懐かしく思われる心情。

〔ポイント〕

要素A【2点】堀河帝に親しく仕えた日々が

※BもCも0点の場合は得点できない。

※「堀河帝に仕えた日々が・堀河帝の御代が・堀河帝(帝)とのことが」等、自分(作者)が「堀河帝」に関わることとして書かれていればよい。

※ただし、右の意がなく、Bの内容だけを受けて「堀河帝に困らされたことが・堀河帝に意地悪されたことが・堀河帝に退出を邪魔されたことが」等、または、「堀河帝の思いに添え得ず」となっている場合は【1点】。

要素B【2点】二度と戻らないものであると思うと悲しく、

※Aが0点の場合は得点できない。

※「戻らない・二度とできない・もうありえない」等の意があればよい。

※「悲しく・つらい・残念だ」の有無は不問。

ただし、Aが「堀河帝の思いに添え得ず」となっている場合は「後悔する・残念だ」で【1点】とする。

要素C【2点】懐かしく思われる心情。

※Aが0点の場合は得点できない。

※「懐かしい・慕わしい・恋しい」等の意があればよい。

※右の意がなく「思い出す」の意がある場合は【1点】。

問三(ア) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 6点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

「傍線部」

A2 いかで心得させたまひたりしにか、**B2** まかづることおほせられしかば、**C2** 「さに候ふ」と申したりし

「模範解答」

A2 堀河帝はどうしておわかりになったのでしょうか、**B2** 私が退出することについておっしゃったので、**C2** 「そうでございます」と私は申し上げた。

「ポイント」

要素A【2点】 いかで心得させたまひたりしにか、 ↓ 堀河帝はどうしておわかりになったのでしょうか、

※「堀河帝は」等の主体の補いや、「私の考えを」等の目的語の補いの有無は不問。

※「どうしてわかったの(だろう)か」の意があれば【1点】。

※「どうして」は「なぜ・どうやって」でもよい。

※「わかる」は「気づく・理解する・知る・心得る」等でもよい。

※右の意があり、尊敬の意(おくになる・くなさる・くいらっしゃる)もあれば【2点】。

要素B【2点】 まかづることおほせられしかば ↓ 私が退出することについておっしゃったので、

※「私が・私の」等の主体の補いの有無は不問。

※「退出すること」を・退出について「の意があれば【1点】。

※「おっしゃったので」の意があれば【1点】。

※「尊敬の意がない」言ったので、過去の意がない「おっしゃるので、」ので・から「の意がない」おっしゃった」は×。

要素C【2点】 「さに候ふ」と申したりし ↓ 「そうでございます」と私は申し上げた。

※「私は」等の主体の補いの有無は不問。

※「そうでございます」の意があれば【1点】。「そう」の内容を補った「退出します」等でもよい。

※「丁寧の意がない」「そうだ・そうである・退出する」等は×。

※「申し上げた」の意があれば【1点】。

※「謙譲の意がない」「言った」、尊敬の意になっている「おっしゃった」等は×。

問三(イ) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 6点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

「傍線部」**A**にくげに思ひたるさまこそ**B**しるけれ。**C**いかがせん。**D**苦しければ、**E**うちふしてやすむぞかしと、**F**しばし念ぜよかし。

「模範解答」**A**私のことを憎らしく思っている様子が**B**はっきりと見える。**D**どうしよう。**C****I**苦しいので、**E**ちよっと横になって休むのだよと、**F**しばらく辛抱してくれよ。

「ポイント」

要素**A**【一点】にくげに思ひたるさまこそ ↓ 私のことを憎らしく思っている様子が

※「私のことを」等の目的語の補いの有無は不問。

※「憎らしく」は、不快感を言っていれば「憎らしげに・憎しげに・気に入らなく・不快に・不愉快に・おもしろくなく」等でもよい。「つらく・悲しく」等は**X**。

※「たる」の存続(〜ている)・完了(〜た)の意がない場合は**X**。

※「様子」は「様・有様・の・こと」等でもよい。

要素**B**【一点】しるけれ。 ↓ はっきりと見える。

※「明らかだ・はっきりしている」等でもよい。

要素**C**【一点】いかがせん。 ↓ どうしよう。

※「どうしようか」、または「どうしようもない・しかたない」等でもよい。

要素**D**【一点】苦しければ、 ↓ 苦しいのて、

※「苦ししい」は、横になる理由となっていれば、「つらい・疲れた・だるい・体調が悪い」等でもよい。

※「のて」は「から・ために」等でもよい。

要素**E**【一点】うちふしてやすむぞかしと、 ↓ ちよっと横になって休むのだよと、

※「横になって休むのだと」の意があればよい。

「横になって」は「寝転がって・転がって」等でもよい。これに相当する意がない場合は**X**。

※「ちよっと」と「よ」の有無は不問。

※「休む・休もう・休みましょう・休め・休みなさい」など「休む」の後が断定(〜だ・〜である)になっていない場合は**X**。

要素**F**【一点】しばし念ぜよかし。 ↓ しばらく辛抱してくれよ。

※「しばらく」は「しばらくの間・しばし」も可。これに相当する意がない場合は**X**。「少し」は**X**。

※「辛抱してくれ」は「我慢せよ・耐える」等でもよい。これに相当する意がない場合は**X**。

「辛抱する」のように、命令(相手にたのむ)の言い方になっていない場合は**X**。「祈れ・思え」は**X**。

※「よ」の有無は不問。

四 傍線部について、これと同じ時の同じ動作を表す語を、文中から書き抜きなさい。

基準 配点 4点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕 まかて

〔模範解答〕 A4 出づる

〔ポイント〕

要素A【4点】 出づる ↓ 堀河帝を偲び申し上げないような人は、

※ 「出づる」以外は×。「いづる・出る」等は×。

問五(一) 和歌①について、「雲の上」がどのようなことを言っているのかを明らかにして現代語訳しなさい。

基準 配点 6点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

【該当歌】

A I そのかみの乙女の姿思ひ出でて B I いとど恋ひしき C 4 雲の上かな

【模範解答】

A I かつての五節の舞の舞姫の姿を思い出して、 B I ますます恋しく思われるのは、 C 4

堀河帝御存命の折の宮中であるなあ。

【ポイント】

要素 A 【1点】 そのかみの乙女の姿思ひ出でて ↓ かつての五節の舞の舞姫の姿を思い出して、

※ 「かつて」は「以前・昔・当時」等でもよい。これがない場合、誤っている場合は X。

「かつて」に係る「堀河帝御存命の」という説明の有無は不問。

※ 「五節の舞の舞姫」は「五節の舞姫・舞姫・豊明節会の舞姫」等でもよい。

これに相当する表現がない場合、「乙女」のままになっている場合は X。

※ 「姿」の有無は不問。

※ 「思い出して」は「思い出すにつけても」等でもよい。これに相当する表現がない場合は X。

要素 B 【1点】 いとど恋ひしき ↓ ますます恋しく思われるのは、

※ 「ますます」は「いよいよ・一層」等でもよい。これ相当する表現がない場合は X。

右の意がなく「たいそう・非常に」等がある場合は X。右の意があれば「たいそう・非常に」等があってもよい。

※ 「恋しく思われるのは」は「恋しいのは」等でもよい。これがない場合は X。

※ 「ますます恋しく堀河帝御存命の折の宮中が思われるなあ」のように表現されていてもよい。

要素 C 【4点】 雲の上かな ↓ 堀河帝御存命の折の宮中であるなあ。

※ 「堀河帝」は「帝」等でもよい。「御存命の折の・堀河帝の」に相当する表現がない場合は マイナス2点。

※ 「御存命の折の」は「が生きていた・がいた・に仕えていた・に共に仕えた」等でもよい。

※ 「宮中」は「宮中の日々・宮中の生活・皇居・御所」等でもよい。

「宮中」の意がなく、「堀河帝のこと(頃・時)」となっている場合は マイナス2点。

※ 「なあ(詠嘆)」は「ことよ・よ・ねえ・ね」等でもよい。これがない場合、誤っている場合は マイナス1点。

※ 「ますます恋しく堀河帝御存命の折の宮中が思われるなあ」のように表現されていてもよい。

問五(2) 作者は、和歌①を受け取ったことで、傍線部に対する答えを得ているといえるが、それはどのようなものか、五〇字以内で説明しなさい。

基準 配点 6点 採点方法 各要素単独採点(Aは条件あり) 字数 50字。

〔該当歌〕 そのかみの乙女の姿思ひ出でていと恋ひしき雲の上かな

〔傍線部〕 こと人、何ごとか。

〔模範解答〕 **A3** 堀河帝に親しく仕えた女房は、自分と同様に、**B3** 堀河帝の御存命の時分を忘れずに慕わしく思っている。(四六字)

〔ポイント〕

要素A【3点】 堀河帝に親しく仕えた女房は、自分と同様に、

※Bが0点の場合は得点できない。

※「堀河帝と親しくした人は・帝に近しく仕えた人は」等の意があればよい。

※「自分と同様に」の有無は不問。

※「親しく・近しく」の意がない「堀河帝(帝)に仕えた人は」等は【2点】。

※右の意がなく、「大和殿は・和歌の詠み手は」のような限定した表現のみがある場合は【1点】。

要素B【3点】 堀河帝の御存命の時分を忘れずに慕わしく思っている。

※「堀河帝(帝)を慕っている(懐かしんでいる・恋しがっている)」の意があればよい。

※「堀河帝(帝)を」は「堀河帝(帝)の御代を・堀河帝(帝)存命中の宮中を」等でもよい。

※右の意が明らかでなく、「慕わしく思っている」等の表現のみがある場合は【1点】。

※「慕っている」は「懐かしんでいる・恋しがっている」等でもよい。

※右の意がなく、「忘れられない・忘れずにいる」等の表現になっている場合はマイナス1点。